

ZOOM UP



1996.No.95



キャンパスの若人
新潟大学歯学部

医・歯界展望

“紅もゆる丘の花…月こそかかれ吉田山”
(旧制第三高等学校寮歌。後に京都大学に併合)と歌われる京都大学は、文字通り東山に連なる吉田山を背景に、100年を誇る伝統校らしい風格を見せて建っている。

創立は明治30年。現学生数は、大学院・留学生を含めおよそ20,000名。

大学受験時、誰もが一度は憧れる、レンガ造りの正面時計台。その2階部にある総長室に続く応接・会議室で気軽にお話し下さる井村総長。略歴が示すように、長年医療一筋。病人の心と身体を見つめ続けて来た人らしく、やさしい笑顔と温かさが伝わって来る。

—新入学生も落ち着き、校内も平常に戻られた頃と思いますが、今年の新入学生に話された言葉は?「今年は、本校の大先輩にあたる今西錦司先生の生き方を中心に話しました。現在の受験を中心とした教育の在り方は、与えられた知識を正確に効率よく覚え

ることばかりで、自分の頭で考え、創造する教育がなされていません。今西先生は農学部に入り昆虫の生態学に興味を持ち、最初近くの鴨川で毎日蜻蛉(かげろう)を観察して4種が棲み分け、お互いに共存し合っていることを発見。それまではダーウインの生存競争説が主流でしたが、以来今西先生の『棲み分け理論』として、独自の生態学を確立した方です。戦後は九州にある都井岬で『個体識別法』による野生馬の研究から、更に霊長類である野生猿の研究へと領域を広げ、犬山市に日本モンキーセンターを作り、霊長類の研究で世界的に名を成しました。偏差値一辺倒で来た新入学生に、既存の知識にとらわれることなく自分の頭で考えることの大切さを知ってもらいたかったからです。

—しかし、幼少時から受験の為の勉強をしなければ一流大学にはとても入れないのが現実。その辺は?「ええ、特に東大、京大は悪い、と言われております(笑)。ただ現在の大学教育はかなり高度になっていて、基礎学力が身につけていないと追いついていけないことも事実です。毎年当校もドロップアウトが少しあります。又一方企業も一流大学卒を欲しがるのが現実で…。アメリカには50近いリサーチ・ユニバーシティと言われる大学がありますが、日本にも各地に高いレベルの大学があれば、こうした偏った傾向は少なくなって来ると思います」。どのような質問も丁寧に、歯切れ良く。

お生まれは滋賀県・八日市市。旧制第三高等学校から京大医学部に。

—医学部に入られた動機は?「子供のころ身体が弱かったので、よく病院に行きました。そこで人体解剖模型や細菌の本などを見て、将来僕も医者になろうかな、という漠然とした気持ちがありました。卒業後も、最初は田舎に帰って開業しようかなと思っていましたが、京大で1年、外で2年臨床医をしている中に内科学に興味を持ち、アメリカに留学。現在に至ってしまいました(笑)」。

—過日、医療審議会でインフォームド・コンセントや介護保険法の答申がありました。それ等の教育をこれ以上授業に盛り込むのは無理なのでは?「ええ、こうしたことは、医師と患者の心の問題として大切です。アメリカでは4年の大学生活を終了した後で、自身の進む道として専門教育を学びますから、モチベーションがあって医学部に入ってきます。

その点日本では、高校の成績が優秀だから医学部へ進めと、先生や予備校で言われ入学するケースが多いので、入学後自分に向いてないと感ずる場合が多々あります。私も癌の患者さんを多く見て来ましたが、治る場合は良いのですが、無理な場合はその方の生き方や家族・環境を含めた背景を考慮して話すことが必要。その判断は人生経験を積まないと出来ません。一口にインフォームド・コンセントと言いますが、日本ではまだ時間がかかりそうですね。その解決方法には「やはり、卒後教育ですね。以前は病气より人を診ることの大切さを主に先輩から教えられて来ましたが、次第に科学が中心となり、人間として患者さんに接することを軽視する傾向が強くなって来てしまいました。特に昭和40年頃から教養教育も少なくなり、専門課程が重視され、単位の取得のみに終わる教育となりましたが、医療に携わる人間は中広く人間的な教養が大切。技術革新の烈しい世界の中にあつて、専門の研究・勉強も必要ですが、人間としての教養も生涯学んで行く姿勢が何より大切だと思います」。

—高齢化が進み、増々医療費の捻出が難しい時期に来ておりますが?「ええ。しかしGNPで見ると、日本の医療費の割合はアメリカの1/2以下。独、仏、北欧等を比べても日本はまだ少ないのです。日本は目に見えるものにはお金をかけますが、医療や福祉、教育や研究などの投資は他の先進国に比べて非常に少ないのが現状です。戦後50年。政治、経済、文化等、日本全体はいま大きな曲がり角に来ているのではないのでしょうか」。

—歯科もそうですが、医師も過剰と言われておりますが、その対策は?「国立は12%、私立は5%の削減をしました。公立は県との兼ねあいがあり未だ目標には達していませんが、今後も検討が必要でしょう。が、私は病院や開業等の臨床にこだわることなく、他の分野—例えば製薬会社や産業医、基礎研究など、分野を広げたらまだまだ活躍の場は多く残されていると思います。高齢化を迎え、人間最も大切なのは健康を維持すること。これに貢献する医師の道を総合的に広く考えていくことが必要だと思います」。

40才になるまで、歯医者さんには行ったことがない、と言われる健康さ。日本を代表する大学の総長であるが、気どりもなく、明るく爽やか。真の国際人を思わせる方である。



京都大学 総長

井村裕夫

●略歴

昭和6年2月 滋賀県八日市市に生まれる
昭和29年3月 京都大学医学部卒業
昭和30年7月 京都大学医学部付属病院副手
昭和31年3月 大津赤十字病院内科医員
昭和37年6月 京都大学医学部助手(第二内科)
昭和38年11月 米国サンフランシスコ市
カリフォルニア大学研究員
昭和40年8月 京都大学医学部講師(第二内科)
昭和46年9月 神戸大学医学部教授(第三内科)
昭和52年4月 京都大学医学部教授(第二内科)
平成元年4月 京都大学医学部長
平成3年12月 京都大学総長
平成6年12月 日本学士院会員
平成7年10月 アメリカ芸術科学アカデミー名誉会員

私と新潟大学歯学部

歯学部長
小澤英浩



■プロフィール

昭和10年12月 東京・杉並に生まれる
昭和35年3月 東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業
昭和36年4月 新潟大学助手医学部(解剖学)
昭和38年4月 東京医科歯科大学助手医学部
(付属硬組織生理研究施設)
昭和42年5月 新潟大学助教授歯学部
(口腔解剖学第2講座)
昭和42年6月 バンダービルト大学医学部分子生物学教室
(アメリカ合衆国テネシー州)へ留学出張
昭和42年7月 学位授与 医学博士(東京医科歯科大学)
昭和48年1月 新潟大学教授歯学部
(口腔解剖学第1講座主任)
平成元年7月 新潟大学 評議員
平成5年4月 新潟大学 歯学部長・評議員併任、
大学院歯学研究科長併任、現在に至る

新潟駅より車で5~6分。新潟大学歯学部は国道116号線より1本入った市役所にほど近い丘陵地に医学部と隣接されて建っている。1日の外来患者数は500人弱とお聞きするが、駐車場が40~50台と狭いのは、交通の便が良いためか、と思いつつ教授室へと向かう。

丁寧なご挨拶と共にお迎え下さった小澤歯学部長。ご経歴が示すよう、口腔解剖学、特に硬組織・骨代謝機構の研究では、日本を代表する学識者のお一人としてその名を知られているが、硬い研究内容とは違い、いたって親しみやすい温和な紳士、といった印象。学生間での評判も良いことであろう。

教授室の壁には先生ご自身による骨組織の顕微鏡写真が。あまりにも見事なきれいなことから、右頁にご紹介することにした。

ご就任は平成5年4月。数えて12代、8人目の歯学部長である。

「当学部の設立は昭和40年。設立時の入学定員が40名から始まり、その後80名、そして60名へと削減しましたので、同窓生はおおよそ1,400人強。第一期生はそろそろ50代に近くなり、地域の中堅医師として貢献・活躍しております。又、全国歯学部、歯科大学の教授、助教授としても6~7名就任し、後輩の教育指導に当たっております」。

——今年卒業生に贈られた言葉は? 「これは今年に限ったことではありませんが、やはりキーワードは“患者さんの為に自身の持っている力を総て出し切る歯科医師であれ”ということですね。特に今後増々高齢化を迎える社会にあって、流動食や点滴に頼ることなく、最後まで自分の歯で食べられることは最大のたのしみ。その食文化の担い手は諸君である。輝かしい人類の文化遺産として歯学が将来残るかどうかは、今後の君達の活躍如何にかかっている。そうした自覚を持って進んで欲しい、と話しました。又、個人レベルで考えますと、医・歯双方に言えることですが、理系が得意科目で入って来た学生が多いことから、多勢の人と交わり、幅広い知識を身に付けることにとかく不得手な人間が多いのです。それで私は、“とにかく1日30人の人と言葉をかわすようにしなさい。”そして全人的なコミュニケーションを持つ努力をして行くようにと話します」。現代の若者風潮全般については「現在の学生の親は、丁度日本の高度成長期に育った人達が多く、共働らきで、子育てに対する認識や、躰を身に付けさせる努力に欠けていたのではないかと感じる場合があります。その歪みが学生諸君にも時々

見られ、今更ながら家庭教育の重要性を痛感することがあります」と。

お生まれは東京・杉並。開業医の長男として生まれ、当然の如く歯科医師の道へ。「ええ、入学した時、親父は喜びましてね。それが卒業時基礎系に進むとわかった時は怒り心頭。勘当されてしまいました(笑)」。お父様は今年87才になられるが、現在も東京・銀座でご開業されていると聞かすが、男兄弟3人で長男が跡を継ぐから、次、三男は好きな道へと進むことを了解したのは良いが、開業医は嫌だと言われたら…。手塩をかけて育てたお父様の気持ちもわかるような気がする。「ええ、私も初めは臨床医になろうと思い、口腔外科を考えたくです。が、何しろ親父は“歯科医の本質は補綴”の一点ばり。今でも技工も総て自分でやる位ですから、私の意見には大反対。私も意地があり(笑)解剖学、特に微細な研究の出来る電子顕微鏡に惹かれ、その道の先駆者である水平教授のおられる弘前大学医学部へ行ってしまう。その後教授が当校に赴任されることから私も当校の医学部、更に又母校へと共に移りました」と若き日の道程を。昭和42年、新潟大学に歯学部が新設されたことから再び当校へ。「今では一番古くなってしまいました」と笑われる。

—各大学共、魅力ある大学づくりを目指し新カリキュラムの導入をされていますが、当大学をPRするとすれば？「当校は国立としては日本海圏で唯一。ロシア・北東アジアを含め環日本海圏の中軸的役割を果たしたいと思っています。特に日露医学協力機構においては歯科大学・歯学部の主幹校として、毎年交流国際シンポジウムを開催。今年は9月にロシアのイルクーツク大学で予定をしています」。「更に超高齢化社会に対応するため、高齢化を軸上にとらえた教育、研究の基盤を確立する努力をしています」。「校内のスタッフも設立時からの校風ですが、非常にオープンな人事と自由闊達、常に一步先を進むという努力家が多いことが自慢できますね。大学院レベルでの研究業績も全国で3~4番目を維持しているのではないのでしょうか。又、皆さんご存知のように今、卒前、卒直後の研修制度化が提議されていますことから、大学院教育を生涯教育の中核として位置づけ、門戸を広く、一般開業医、勤務医その他に広げ、昼夜開講制を本年4月から導入しました。しかしこのようなことは大学のみでは出来ません。地域社会、特に歯科医師会との連携や協力があるからこそ。そうした意



味でも地域の中に溶け込んだ貢献する大学であると自負しております」。「新カリキュラムの編成につきましては、平成10年を目処に、『ゆとりあるカリキュラム』『問題提起・自己解決型学習』を基本理念とし、バラエティーに富んだ編成が進められており、そこには選択科目や総合講義、ボランティア実習、研究室実習(フリークォーター制)の導入が検討されています。以前は患者数の激増から歯学は完成教育をと要求されましたし、それはそれで立派に貢献したと思っておりますが、今日の社会情勢は大きく変化して来ましたので、時代の要望に沿った21世紀の日本を見据えた歯学教育を行わなければならないと考えています」。

当校に赴任され約30年。歴史と共に歩まれて来ただけに、その思いは人一倍。今夏開催されたアトランタ・オリンピックには当学部を卒業し、学位まで取得した小日向君がボートで出場したんですよ、とわが事のように喜ばれる歯学部長。先年は歯学部では初めての「日本電子顕微鏡学会賞」を受賞されたと聞く。現わされた著書も多数で、特に骨や歯など硬組織に関する著書が多い。学会の理事・評議員も、ご専門の解剖学会から始まり、日本骨代謝学会、日本電子顕微鏡学会、歯科基礎医学会、歯周病学会、国際歯科研究学会など広い分野に及んでおられるようだ。

「時に、歯科も医科も身体の一部だから統合すべきだという話しを聞きますが、私は、将来はわかりませんが、今まで歯科と医科がそれぞれ独立して歩んで来たからこそ、これだけ大きく歯科が発展して来られたのではないかと考えております。先程話しましたように高齢化が進む中であって、亡くなるまで物を食

べられる人間の最も大切な欲求を満たす担い手である歯科医師。まだまだ口腔機能の複雑さが総てわかっているのではありません。「我々はデンティストとして何を問われている

か」を常に考え、今後も頑張っていきたいと思っております」。「優秀な仲間を多く知り、沢山の後輩を育て、その人達が今全国で活躍しています。親父には少々悲しい思いをさせましたが(笑)、歩んだ人生に悔いはありませんね」。「夢は硬組織の研究センターを当地に創ることです」とニコリ。還暦を迎えられても、その夢は青年のように広がっていくご様子である。



社団法人

岡山県歯科医師会

岡山駅から桃太郎通りと呼ばれる大通りを後楽園方面に向かって車で3~4分。左に折れ、20m程いった通りに面して建つ6階建の白亜の岡山県歯科医師会館。

前面には市立オリエント美術館や県立美術館、更に通りを挟んだ斜め前方には巨大なシンフォニーホールが見えるというカルチャー・ゾーン。昭和47年に建てられましたので今では少々手狭となりました、と言われるが、この地のりの良さを考えると、充分フォローをしているのではないと思われる。

会館に入るとすぐ目につくのが、日本の歯科医療界を今日に導いた、現東歯大の前身である高山歯科医学院の創設者・高山紀富先生の胸像。

そう言えば先生は岡山藩士のご子息であった、と今更ながら思う。

通された会長室には岡山出身である現首相・橋本龍太郎氏の書が見事な筆使いで掲げられてあるが、“残念なことに大蔵大臣当時のもの、首相になってからは未だなんですよ”と苦笑される役員の方々。

皆さん温和で、さすがは気候風土に恵まれた土地に育った先生方、と妙なところで感心する。

Officers of
OKAYAMA
Dental Association

- 会 長／横山 好文
- 副 会 長／坂本 茂樹
- 副 会 長／近常 良孝
- 副 会 長／橋本 讓
- 専務理事／相坂 俊太
- 理 事／西崎 静夫
- 理 事／松浦 孝正
- 理 事／福田 英二
- 理 事／中村 知明
- 理 事／平野 紀正
- 理 事／安東 健介
- 理 事／金平 康弘
- 理 事／駒井 正昭
- 理 事／安井 正純
- 理 事／伊丹 義明
- 理 事／伊藤基一郎
- 理 事／黒住 忠正
- 監 事／高田 良平
- 監 事／佐藤 佳弘
- 監 事／小山 直



会長
横山 好文



会長：現在当県は人口約195万人に対し、会員は1,010名。数字だけを見ますと、まあ平均値位かと思いますが、予備軍と言いますか、今後歯科医師として独立される方達を入れますと、人口10万人に対し約70名となり近い将来はグッと厳しくなるのではないかと予想されます。が、私はそれを悩み考えているより、とにかく現状の中で自身の持てる力を患者さんの為に充分発揮することが大切と思うことから、患者さん1人1人に納得のいく診療を“のびのびとやっ行ってこうではないか”と提唱しております。在宅訪問診療、歯科医院全体のレベルアップを計るコ・デンタル指導、未来歯科についての問題等、即役立つ内容のある講演や研修会を開いておりますが、皆さん、特に若い先生方が熱心に出席され、会にも協力してくれる姿に接しますと、歯科医療界の未来を見ているようで、うれしくなります。執行部も会員も一生懸命。私は何もせずに、うまいこと行って…(笑)。恵まれていると感謝しております。

副会長
坂本 茂樹



坂本：県歯会の主な活動は、県と共催の形で実施する県民のくらしの指導等を含めた保健福祉大会です。公衆衛生活動は地域住民と密接しての活動になりますので、現在県下は21支部に分かれ活動しています。たとえば倉敷や津山では講演会や展示会や障害者診療などを活発に行ない成果を上げているようです。厚生省・日歯が提唱する8020運動の展開——歯周病に対する対応と指導に主軸を置き実施しております。又現在準備段階に入っておりますが、在宅介護チームに歯科も参加、総合的な県民の健康づくりを目指して準備しております。広報につきましては、対外的にはテレビや新聞で歯の健康についての相談や悩みを県民の意向に沿って答える放映、欄を設け融和を図るようにしております。対内では毎月40ページ近い会報を出版

し、お知らせ等を含め中広く会員のレベルアップや関連ニュースの報告をするようにしております。

橋本：私は学術、社保、医事処理、法歯会を主に分担しておりますが、基本を会長が言われるように、県民のニーズを受けて保険点数等にはこだわらないで、自身

副会長
橋本 讓



の持つ最高の治療を、のびのびとやっ行ってこうをモットーに、結果を重視する方向で指導して行きたいと思っております。在宅歯科診療におきましては、現在ポスターを全会員に配布し、訪問可能な歯科医院はそれを院内に貼り、要望に応える促進運動を展開しております。各先生方も気持ちよく受け入れて下さり、執行部もホッとしていると同時に、こうした活動を通して歯科医師の奉仕活動が県民に認識され、更に大きく向上・発展につながればと願っております。

医事処理につきましては、幸い大きな問題は現在までありませんが、今後も正確に問題点を聞き出し、双方が満足する結果を得て、これを基本に事に当たって行きたいと思っております。

近常：私は当館内にある衛生士学院と医療管理、調査、文化部を主に担当しております。医療管理におきましては、以前とは異なり、高齢者の増加、加えて医療費の抑制と、経営も年々厳しくなって来ております。が、そうした中であって、いかにして患者さんに喜ばれる歯科医院づくりをするか、会員とコ・デンタル全体を対象とした小冊子を今年配布しました。お陰様で会員の方々には好評のようで、今後も時代の要求に沿った会員のためになる情報を適時流して行きたいと思っております。

衛生士学院につきましては——当学院は昭和34年、全国で11番目に創立された



副会長
近常 良孝



衛生士学校で、巣立った卒業生は既に1,333名を数え、国家試験も就職率も100%。伝統ある衛生士学校と自負しております。授業の内容は、カリキュラムに沿って、開業されているその道のベテランの先生方が指導しておりますから、即役立つ、実際的な授業内容となっております。その点も大いに自慢出来ます。インフォームド・コンセントから歯周炎の初期処置まで、コ・デンタルの大切な一員として歯科医師と共に当界の発展に尽す衛生士の養成をして行きたいと思っております。

専務理事
相坂 俊太



相坂：私は広報と渉外を受け持っておりますが、広報につきましては、対外広報はその反応を知るの難しいのですが、対内の会員向けの会報はバラエティーに富んでいると好評を頂き、理事もやりがいを感じているようです。又、講演会につきましても、特に若い先生方からの希望を聞き、基礎から先端、隣接医療まで幅広く取り上げて開催しております。こうした方針は会員にも好評のようで、毎回出席者も多く、満足され、私達執行部もうれしく感じています。今後の事業としましては事務局のOA化ですね。今年10月を目処にしておりますが、事務処理の対応はもとより、会員の皆さんにも情報を満載、即時に流すきめ細かな有意義なものにして行きたいと考えております。

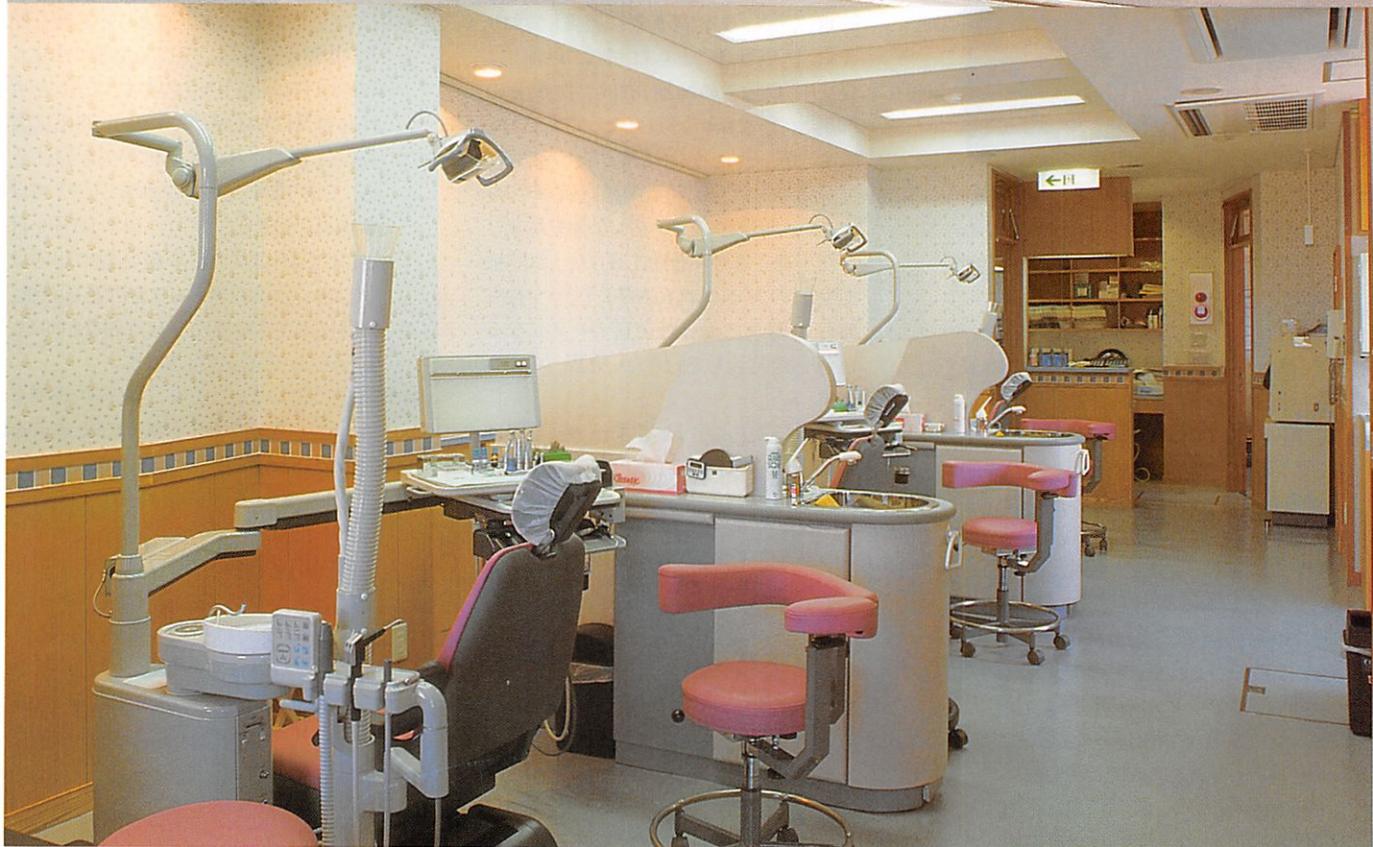
会長：先に言いましたように、歯科医療界も年々厳しくなって来ておりますが、未来を担う若い方達の芽を大切に育て、歩む道をより良い方向に指導して行くのが我々の任務と思っております。当県には高山先生を初め、医学方面でも宇田川玄随先生や緒方洪庵先生という日本の医療界の夜明けを築いた素晴らしい方々が多く居ります。そうした方々を郷土の誇りとし、同じ医療界を歩む者として恥じない県歯会＝歯科医師でありたいと願っております。



五味デンタルクリニック

秋田県本荘市川口字家後79-1

院長 五味明雄





秋田市街より、羽越本線に沿うように走る国道7号線の海岸線を南におよそ1時間。本荘市は周囲を丘陵に囲まれた人口5万弱の静かな田園都市である。今回ご紹介の「五味デンタルクリニック」は羽後本荘駅から車で5～6分の広い国道105号線筋に建つテナントビルの2階にある。医院前に立つと2階部分の壁面には大きく医院名が表示され、更に入口にも夜間にはライトアップされる看板と、お聞きするまでは持ちビルではないかと思うほど恵まれている。そして巾1m半はあるかと思われる地方ならではのゆったりとした階段を昇って玄関へ。木目に菱形のガラスを貼め込んだドアを開けて待合室へ。

待合室には北国らしく床暖房されたブルーとグレーの格子模様のじゅうたんが敷かれ、窓側から壁面に沿って、L字型にブルーの椅子が置かれている。アールを採った受付オープンカウンターからスリッパを履きかえドアを開けて診療室へ。スリッパ交換は、一瞬、何故なのだろうと思うが傍らの表示に“院内感染防止の為、ここからスリッパをはきかえて下さい”とあり、中には紫外線消毒された抗菌スリッパがキチッと揃えられている。院内感染防止にはかなり気遣われている。院長の方針がわかるようだ。

診療室内には、壁面に沿って、濃いグレーと紫のファイン<GMD>L型がそれぞれフレクシークリーンエアースystem付で3台、手洗いと扇形のセパレーションをセットにした仕切りの中に並んでいる。その奥面には更に1台、完全個室の中に設置されてある。院長のお話によると、治療時間のかかる患者さんやインプラント等の外科治療やレーザー治療な



トイレ内に設置された“おもむ”換え台

どの為に設けた多目的利用の個室とのこと。ユニットの背面の技工室、消毒コーナー、レントゲン室と並ぶ窓からは、近く建つ総合病院の広い駐車場が。歯科医院の立地条件としては申し分のない環境と言えるであろう。

院長は昭和63年東京歯科大学をご卒業。卒後は関根弘主任教授(前東歯大学長)のもと、大学院で補綴学を学ぶ。その後、千葉市にある(医)健光会・スマイル歯科で分院長として1年半勤務。今年3月、生まれ育った

故郷、本荘市に戻り開業。今は診療一筋と言われる若さ溢れる青年院長と明るいスタッフ。開業間もない郊外医院ではあるが、患者さんやスタッフにも恵まれ、順調なスタートのようである。

Q：歯科医師を志された動機は？

院長：祖父も父も姉(東京・目黒で開業中)も歯科医で揃って東歯大の卒業生。やはり長男ですし、昔から父の診療する姿を見てきましたので、迷わず歯科大学(東歯大)に進みました。

Q：で、お父様は？

院長：ここから車で5分程のところで開業しておりますが、診療方針や考え方も違いますので、父とは別にここで開業をしました。でも、自分の歯科医院を作れと言ってきたのは父の方からだったんですよ(笑)。

Q：この辺りは？

院長：近年急速に発展した郊外住宅地で、隣りには総合病院も移転して来ましたし、近く県立大学も出来上がるとのことですから、5年後には付近の環境も一変すると思いますね。総合病院内にも歯科医院はありますが、主に入院患者を診療されているようで、ほとんど影響はありません。かえって、お互いに情報や意見を交換したり、他に全身疾患を持つ患者さんの診療相談にも乗ってくれたりで勉強共々助かっております。

Q：患者層、患者数は？

院長：子供さんからお年寄りまで幅広い層ですね。夜は7時半まで受付けております



腰原歯科医院

長野県松本市新村2299-2

院長 腰原高志



長野高速自動車道・松本ICから国道158号線を市郊外に向かって3~4分。ご紹介の「腰原歯科医院」は、国道を通り1本入った静かな田園地帯に建っている。医院前に立つと、冠雪の北アルプスとそれに続く麓の町並みから田植えの終わった緑の平地と、素晴らしい風景が一望出来る、絶好の環境。

冬の厳しさはわからないが、長野県は、南も北も何時来ても一度は住んでみたいと思う自然の美しさを存分に旅人に見せてくれる、山と川と湖が点在する県である。

医院は、写真でもおわかりのように、これ又、アートミュージアムを思わせる素晴らしいの一言につきる建物で、竣工時(1994年)には市から「都市景観賞」を受賞したといわれる程凝った造り。

建物をコンクリートの打ちっばなしの外壁で囲み、その上には低い三角形の屋根と簀の子状の内壁。日本の様式美と西洋のモダンさを巧みに取り入れた見事な建物である。

木目の入口ドアのみを残し、二方を素通しガラスで囲んだ玄関から待合室へ。

室内は、一方が透明ガラス。壁面から前面窓に沿って7~8人掛けのブルーの椅子が置かれている。室の天井は中央に横長三角形の明かり採り、二辺から外光が室一杯に広がっている。お話しによると中には蛍光灯も埋め込まれ、曇天の日に備えてあると言う。

診療室は、ページュの床に、天井・壁は白。窓に沿って広めの飾り棚を設け、その前には右前システムの<スマイリーAZ>ユニットが3台並んでいる。入って右手角の床面コーナーは高さ50cm程の明かり採りの窓が設けられていて、外光はもとより、足元の通風も快適になるように工夫されている。ユニット背面は、来たるべき高齢者社会に備えてか、車椅子でも楽に往来出来るゆったりとしたスペースが確保されてある。

外観も内部も細部まで計算され尽くした働きやすそうな見事な設計である。

院長は平成元年、新潟大学歯学部をご卒業。卒後は地元信州大学歯科口腔外科にて4年間研修。その後開業にそなえ、勤務医を約1年間務め、一昨年此処生まれ育った松本市にて開業に踏み切られた。

広い敷地に、モダンでゆったりとした建物と若いスタッフ一同。歯に病む患者さんも当院に来れば、さぞホッとされることであろう。





Q：素晴らしい建物ですね。

院長：設計士が凝り性というか、斬新なイメージの持ち主で。過去設計された建物を見せて頂き、この方ならとまかせました。外観も自分ではイメージが湧きませんでしたので、総てまかせました。正直一見した時は驚きましたが、これも目立って良いだろうと(笑)。毎年松本市で何軒か、市の景観にマッチした建物を表彰しているのですが、それに設計士さんが応募し、受賞しました。色々凝りましたが、借入金の返済もあり、これから大変なんですよ(笑)。

Q：診療室内部につきましては？

院長：内部の注文は、とにかく狭っ苦しいのはイヤ。広めで動きやすい診療室にして欲しい。車椅子でもそのまま診療室に入れるように、と頼みました。今のところ不満な箇所は別にありませんね。

Q：歯科医師を志された動機は？

院長：初め、横浜市大の文理学部に入ったんですが、どうも好きになれそうもなく、新潟大学に入り直しました。性格があまり社交的ではないから、サラリーマンには向かないと思ったことと、小さな時から模型づくりなど、手先を使うことが好きだっ

たことから、歯科の道を選びました。今は良かったと思っています。

Q：患者層、患者数は？

院長：この辺りは農村地帯ですので、午前中は高齢者の方、昼間は子供さん、夕方からは勤め帰りの働き盛りの方が多いですね。最初は近所の方々でしたが、近頃は遠方からもポツポツですが来院してくれます。患者数は1日約20名前後ですが、もともと多人数を診ることに慣れていませんので、この辺が限界です(笑)。

Q：診療方針は？

院長：長年口腔外科にいましたから、基本的に沿って、見えない部分もキチッと治療をすること。時間の許す限り患者さんと口腔内の話はむろんのこと、その他の世間話しをするように心掛けています。設備面では特に滅菌に気を付けております。

Q：オサダを選んで頂けたのは？

院長：学生時代から、色々なメーカーを一通

り使い、その経験からユニットはオサダが最も良いと思っていました。理由はやっぱり故障が少なく、アフターケアが良い、ということですね。評判通り、すぐ飛んで来てくれて助かっております。もっとも営業所がすぐ近くにあるからかな(笑)。AZを選んだのは、前面からの導入が良いと思っていたことから、右前システムがモービルタイプか迷った末、このユニットの方が格好も良いしスッキリしているからと、決定しました。

Q：将来は？

院長：やはり、一生この地でやっていくわけですから、地域に密着した信頼される歯科医院。それを目指して自分のレパートリーを広げ、一步一步ですが着実に歩んで行きたいと思っています。口腔外科を勉強して来ましたので、これからはインプラント等の勉強も本格的に取り組んで行きたいと思っています。



Z O O M で C L O S E - U P



村上 勝先生 の巻

京都市中京区木屋町通四条上ル
(社) 日本歯科医師会 副会長

日本歯科医師会・副会長として3年目を迎えられた村上先生。京都府歯科医師会の理事にご就任されたのが38才の時とお聞きするから、途中少々休憩されたとはいえ、府専務理事、副会長、会長。更に今回のご就任を加えると30年余、会にご貢献、活躍されて来たことになる。

お会いした印象も堂々とした体躯に落ち着いたお話し振り。今年70才を迎えられるようだが、おそらく若い先生方には気軽に何でも相談出来る、豊富な体験に裏打ちされた頼れる大先輩として信頼されていることであろう。

今回は、広島県歯科医師会々長・松島悌二先生のリレーにより、日歯・副会長を務められる村上勝先生にご登場頂きました。

「松島君とは大歯大当時から親友で、私の実家が大阪・枚方市にあって大学から近かったことから、行ったり来たり。また当時は戦中から戦後の食料難の時代で、しかも歳が20才前後ですから、年中腹が空いていました。幸い彼の実家は広島も比婆郡の田舎で、本当に今戦中かと思うほど静かででのんびりしたところだったし、食べ物もあったので、学校が休みになる度に行ったんです。腹一杯メシが食える。うれしかったなー(笑)」。その友情が古希になるまで続き、しかも揃って日本の歯科界を背負う役職にご就任されている。おそらく親兄弟よりも…。勿頸の交わりとはこうした仲を指すのであろう。

——日歯・副会長として現在のご活動は？
「副会長の主な仕事は、厚生省その他の部外審議会に出席し、行政側と話し合いをすることです。現在私は老人保険福祉審議会——これは介護保険を今後どのように組み入れるかという問題を審議。もう一つは医療保険審議会といまして——これは医療制度を今後どのように改革して行くかという審議会です。それと医道審議会の診療科名標榜専門委員会。これは、従来、一般歯科と矯正、小児が認められていた標榜に歯科口腔外科も加えてもらう審議で…。これは耳鼻科との関係もあり、昭和27年に申請したんですが、今回やっと通ったんです。」何と40年以上もかかったんですよと苦笑される。

——今全国の先生方を回っていて一番の悩みは、保険点数の評価矛盾と過剰問題の

ようですが、副会長のご意見は？「保険点数は、内在する問題や国家予算を含め今後解決して行かなければならない大切な問題ですが、歯科医師の過剰につきましては厚生省が10年間で達成せよと言われた大学入学者の20%削減が昨年ではほぼ実現したのです。が、それでも現実を見ますと多いのが実情。一部では70才で保険医から身を引くという意見も出ていますが、それではこれまで保険医として一生懸命頑張ってきた人達はどのように対処するのか、という問題が残されているわけです。難問山積、難しい時代を迎えておりますが、現実を見据えながら、一つ一



つ会員の為に、というのが実感です」。確かにおっしゃる通り。自身を患者さんに置き変えてみれば、今まで共に年を重ね、何でもわかってきていた医師が、急に、保険では出来ない、と言われたら、収入の少ない身には…と考えると気が重くなる。

ご出身は大阪・枚方市。が、お父上は瀬戸内に浮かぶ因島(いんのしま)の出身と言われるから、戦国時代村上水軍として瀬戸内海を支配した海賊(といっても、どこの領主にも属さず、財宝を積む船を襲い、自らの力で生きた軍団)の血筋を引く家柄かも知れない。そう言えば先生の風貌も…。そんな気がして来る。それが次の言動にも…。「学生時代、

私は軍事教練がイヤでイヤで家出を決行。それにはお金が、と親父の金庫から国債2千円分を持ち出し、それで南方(東南アジア方面)に行くつもりで先づ当時満州国と呼ばれた中国の鴨緑江から安東まで行ったはいいが、ここから先は身分証明書が必要だと言われ…。ここまで来ればもう家族も諦めるだろうと家に連絡したら、「安心して文(ふみ)待て」の電報。手紙が来るだろうと待っていたら、変わりに泣きながらお袋が来まして、連れもどされてしまいました(笑)。「でも安東で家出少年として母親が来るまで警察に保護され持金全部没収されましたが、毎日10円くれまして、当時1日2円もあれば生活出来ましたから、結構楽でたのしかったですよ」と笑われるが…。その頃の2千円の価値を計算すると…。とにかく豪傑。村上水軍の血は確実に流れているようだ。「いやいや、今は誰もが認める紳士ですよ(笑)」。ユーモアも交え、ザックバランなお話。そうした性格と幅広い知識・見識がこん日の地位へと先生を押し上げて行かれたのであろう、と想像出来る、たのしい副会長である。

——現在の、特に若い臨床医の方々をご覧になって「一言で言うと、気の毒だなあー、という気持ちになりますね。先にいいましたように需給バランスの違い、加えて費用の高騰、報酬の低下から来る経営不安、膨大な勉強量等々。でも救われる思いがするの若い先生方に聞きますと、「別につらくはありませんよ。良い時代を知らないのがこれが当たり前だと思っていますから」という言葉ですね。これで良いとは思っておりませんが、年に16%も上がった時代を知っている我々は、これでは可哀想、気の毒だと思いますが、そうした言葉を聞くとホッとする気にもなります。情も深い、やさしいお人柄である。「私個人の意見ですが、質の高い医療を提供することによって患者さんの理解を得て自己負担を促進させる方法。歯科の中でも専門分野を標榜することによって、技術料の評価を高める方法等考えられますが、これも都会と地方など条件が異なりますから難しい面もありますが、とにかく出来ることから改善していく姿勢。これが大切だと思いますね」。

——振り返っての感想は？「昔はあまり好きな職業じゃなかったんですが、今は親父に感謝しているんですよ。普通の会社に入ったら、僕など万年平社員(笑)。それが定年にもならず、とにかくここまで来させて貰ったんだから(笑)…」。閉鎖性が強い(?)と思われる医療界にあって、こうしたトップがいるとは心強い。そんな思いのする副会長である。

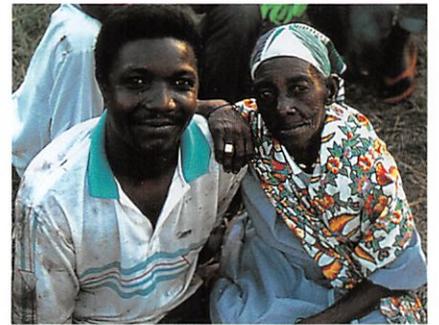
海外たより

長生き時代 を 元気に生きよう

筆者／岩本蘭子(ランコインターナショナル代表)

(その1)





60742才

はじめに

世界一の超高齢化社会となった日本では当然のことだが、アメリカでも高齢者人口に関するニュースや話題が増えている。確か国連の位置付けと思うが、「高齢」は65才以上とされている。しかし「超高齢」となると、まだその正式定義は存在していない模様だ。

それはともかくとして、世界的に、特に先進諸国での高齢人口が増加し続けることは確実なところから、社会・経済・医療の視点から、ひいては「ライフ・クオリティ」、つまり健康に長生きするにはどうすれば良いか、にまつわる議論が盛んとなってきている。

総人口の14%が65才以上というのが「高齢化社会」と言われ、「人生80年」が常識的に定着している。日本がそうなのは94年。高齢人口が7%だった70年から、24年でそうなったわけで、これは発表されている欧米諸国の高齢化速度と比べると、二倍、三倍の速さだ。逆にみれば、それ程急激に日本人の平均寿命が延びていることになる。

昨年9月発表の日本政府の情報に依ると、65才以上の高齢者数は1,821万人で総人口の14.5%となっており、2007年には2,400万人で全人口に占める割合は、20.1%、

つまり世界で初めて20%台になると言う。

アメリカの高齢者人口は現在総人口の約13%で、3,100万人と発表されており、ほぼ9人に1人が65才以上だが、この数字は次の30年間に2倍となる予測だ。高齢者人口が米総人口の20%(約1億人)となるのは、多分2050年頃とみられているから、日本より約40年遅れとなる。

今世紀初めのアメリカ人の平均寿命は47才だったが、今では74才と伝えられる。ちなみに終戦直後の割合は、8%だったそうだ。

社会環境の変化、医学の進歩、健康管理に関する知識の増進などが、私達が長寿となってきた原因であることは確かだ。そして注意して見回すと、何と30代、40代の人達が顔負けする元気な高齢者も、私達の周囲に増えている事実気付く。

元気な高齢者たち

米医学分野で82年から実施されている調査に依ると、アメリカ人の寿命は延びてきているだけでなく、高齢人口に典型的な各慢性疾患にかかって身体が不自由となる率が、毎年1%から2%減少しているそうだ。つまり高齢人口が、以前より「より健康に」なってきたわけだ。

この四月末に、ニューヨークで米最年長者の1人が114才で亡くなってニュースとなったが、J・V・ソトというこの女性、フランクリン・D・ルーズベルトと同じ年の1882年生れ。補聴器はつけていたがメガネは必要なしだったと言う。長生きの秘訣を聞かれると、「神様の思召し」と応えるのが常だったという。

ちなみに判明している他の最年長者では、コネチカット州のメアリー・ビッドウェル(114才)と、ジョージア州のベシー・レイノルズ(116才)が居るが、2人とも女性だ。

ベシー・ディラニ歯科医(104才)

多分、最も愉快な高齢者の例として挙げるべきなのはディラニ姉妹であろう。お姉さんのサラ(107才)は健在だが、「ハーレムの黒人女性歯科医ドクター・ベシー」で知られた妹さんは昨年9月に104才で亡くなり、その際ニューヨーク・タイムズ紙が半ページさいて、D姉妹の人生を伝えている。

D姉妹は北カロライナ州のラレー市生れで、父は奴隷だったが後に米史上初の黒人聖公会司教となった人だ。教育的環境に恵まれた姉妹は最高教育を受け、教養も並々ならぬものだったらしい。

南部の黒人差別のしきたりで、幼少時代の姉妹に関して多くのエピソードが残っているが、一番やんちゃだったらしいベシー医は、或る日「白人オンリー」の水飲口から「ホワイト・ウォーター」を盗み飲みして、「なんだ、同じ味よ」と言ったそうだ。

今世紀の中頃迄南部では、黒人は電車やバスでは後席、ドラッグ・ストアやレストランでのサービス拒否は常例だったから、姉妹が若かった頃の差別待遇はことさらひどいものであったことは想像に難くない。その上当時の白人レベルでも高い高等教育を受けた姉妹だったから、或る時白人とやりあって、ベシー医はリンチにあいかけたこともあったと言う。

南部で先生をした後2人がニューヨークに来たのは1917年。お姉さんのサラはNYのハイスクールで初の黒人家庭科の先生となり、1923年にコロンビア大学を卒業したベシーは、NYで2人目の黒人歯科医となった。以来ベシーが昨年亡くなる迄、生涯独身だった2人が一緒に暮らした歳月は実に百年以上となっている。

「ハーレムの黒人女性歯科医ドクター・ベシー」として彼女が君臨したのは1923年から引退した1950年迄だが、この間只の一度も治



"SUZANNE DE CHILLO / NYT PICTURES"

療代を上げず、クリーニングは2ドル、虫歯の銀の充填は5ドルで押し通したこと、そして有名人の患者が増えても貧乏な人達の治療を同じ様に続けたこと、などは語り草となっている。

しかしここ迄はD姉妹の半世記に過ぎず、60才でひとまず引退したベシー医と62才のサラのそれからの人生がまた凄い。

著書である「Having Our Say:The Delany Sisters'First 100 Years(私達の言い分——ディラニ姉妹の最初の百年)」を書いて、それが出版されたのは1993年。途端に賞は取るは、ニューヨーク・タイムズ紙のベストセラー・リストに載るはで、19ヵ月で90万部売れ、次に「The Delany Sisters'Book of Everyday Wisdom(ディラニ姉妹の日々の分別)」を講談社アメリカから出したのが1994年で、1年ほどで16万部売れている。

1995年の春には「私達の言い分」という名のショーがブロードウェイで上演され、3つのトニー賞候補にあがる程の人気を博している。

こうしてお伽話に出てくるヒロインさながらとなった2人だが、有名になってからもその生活様式は以前通り簡素そのもので、姉妹の

1日は早起きしてオートミールの朝食に始まり、夜はお気に入りの「ニュース・アワー」番組を白黒テレビで見れば就寝、だったと言う。そして電話なしの生活でもあった。

長生きの秘訣を聞かれると、「ハニー、ウイ・ネバ・マリッド(あんた、私達が独身だったからよ)」、というのがベシー医の返事だったそうだ。「死ぬほど心配させるハズバンドなるものを持ったことが無かったし、生きることを怖がりもしなかったし、死ぬことも恐れていないし……」、ともよくつけ加えたと言う。

お姉さんのサラは、「私が長生きしたのはベビー・シスター(妹のベシー)が理由と思う」、と返事している。百年以上生活を共にした人が居なくなると、普通ならガクンとなるころだろうが、「ベストを尽して、これ迄通りに生きて行く、ベシーが居た時と全く同様に」、と答えている。

ところでD姉妹の物語についてだが、それを「黒人」とか「女性」という観点からでなく、「アメリカの物語」として知って欲しい、というのがベシー医の希望だった、とサラは言っている。「彼女は自分の思うがままに生きました。特に最後の数年は、彼女にとって最も楽しく素晴らしいものだった」とも。

長生き時代 を 元気に生きよう

マラソン・レディーのイブリンさん(79才)

ニューヨーカーは独立独歩の気風が強く、生き方も自由自在で個性的で知られるが、その典型的なのが「Eve」の愛称で知られる Evelynさんだろう。

彼女が走り出したのは1981年、64才の時、これ迄に完走したマラソンは実に34回。場所もスウェーデン、英国、ニュージーランド、モスクワ、パミュダ、そして米国各都市と、マラソン参加で世界と全米を駆け回っている人だ。NYマラソンは12回連続完走だったが、1994年だけ初めての完走断念となった。半分辺りまで来て、オレンジの皮で滑って転倒し、片目がふさがるほど顔が腫れ上がったのがその原因。通りかかったタクシーの運転手が、「貴女のスピリットに感激した。来年は完走して下さい」、と無料で家まで送りとどけてくれたと言う。

翌日腫れ上がったままの顔で出勤したら、その顔をひと目みた社長が、「(喧嘩した)相手の男がどうなったか、そのサマを見るのが恐ろしい」とからかったそうだ。

だからイブさんはマラソン界ではちょっとした著名人で、昨年のNYのローカル紙などは、「78才の若さのイブは、只今11月のNYマラソンに向けてトレーニング中。今度はオレンジの皮に気をつけて、ガンバレ、イブ!」と紙面で声援したほどだ。普通英語で年を言う時「〇〇イヤーズ・オールド」と言うが、若者顔負けのシルバー世代に敬意を表す時は、愛情をこめて、「〇〇イヤーズ・ヤング」と言う。

イブさんがマラソンをやることになったきっかけは、62才頃から痛風に悩む身となったから。「少し」身体を動かした方が良いとの医者のアドバイスで、近所のジムに顔を出してみた。そしたらジムの先生が「走れ」と言った。「とんでもない。こんな身体でそんなコトが出来るとは思えない」と拒否し続けた彼女だったが、



テニス・レディーの京極さん(87才)

これは、「日本だって負けてませんよ(ビジネス以外でもね)」ということで、私の伯母、京極とし江をその例として引っ張り出させて頂く。彼女は私の伯父(母の兄)の奥さんだから、私がヨチヨチ歩きからの馴染だ。最初この人は、とっつきにくい存在として私の人生に登場した。子供の私に、よく怖い顔をしたからだ。

最初の記憶は、多分6才位だった私が従兄弟達を引き連れて、庭のプールをペンキで塗った時だ。お葬式か何かで親戚一同が集り、私達子供は退屈した。そこに水を抜いて真白なプールが私の目に入った。私の頭の中で何がどう繋がったのか、色々つまっている物置小屋から赤のペンキの罐や刷毛を持ち出して従兄弟達に分け与え、プールの底によじ下りて、みなで壁面を赤く塗り出したのだ。

先生のしつこさに到頭負けて、或る日道路の「ワン・ブロックだけ」走るハメとなった。

その夜は彼女の「髪の毛1本1本、そして足の指の爪の全部が、苦痛で叫んだ」そうだ。

しかし話はそれで済まず、先生は相変わらずしつこく、「ワン・ブロックだけ」は「ツー・ブロックだけ」、そして……と展開して、「千里の道も一歩から」の言葉通り、気付いたらマラソンを完走する身となっていた、と言う。

「私の次の企画は日本に行くこと!」と言ったイブさんの口から、次々と日本賞賛の言葉がとび出した。「日本人の勇気を尊敬します。ビジネスの能力と言うか、その鋭い洞察力、卓越することに対する献身ぶり。そして日本人の美的感覚、美に対するその感受性…世界一だと思えますよ!」

子供達がいやに静かになった、と誰か探しに来たらしい。30分程で見つかり、張本人とすぐ分かる私に伯母は大変怖い顔をした。

伯父・敬止は医者で、米留学時代に絵を描くことをおぼえ、戦後神戸に自ら設計した京極病院を建てた時、その3階をアトリエとし、生涯絵を描き個展も開いた。進取の気性に富んだ人だったから、戦後早々と外車(確かビューイック)を買い、その配送を待ち切れず、週末に東京に飛んで来て、自らの運転で神戸迄ドライブして運ぶ、という具合だった。新幹線以前のことで、私もねだってこのドライブに便乗した。当時の道路は殆ど舗装されておらず、そこをオープン・カーでつつ走ったから、神戸に着いた時、私達は髪も眉毛も埃で真白だった。月曜の朝の診療時間にストレスか10分位の遅刻で着いたから、事故かとハラハラしていた伯母が怖い顔をしていたのは当然だろう。

そういうわけで、子供の私はこの人のことを何となくとつきにくい大人と意識したらしいが、今思うと、周囲の女性の殆どが着物なのに、この伯母だけが何時も洋服でテキパキしていたことも関係している様だ。

伯父のパートナーとして、医院という大所帯を切盛りするのは、組織で言うと事務局長に当たるから、時代に先がけたキャリア・ウーマンだったわけだ。だからこそ、終戦2ヵ月前の空襲で神戸一帯がやられ、火の海の中を逃げるとき、米袋を水がはってあったお風呂に投げ込む気転も利いたのだろう。

翌日焼け跡に行ったら、お風呂一杯に焚きたてのご飯が出来ていたと言う。そして鶏が焼き鳥になっていた……。それで焼け跡で茫然としている隣近所の人達に声をかけて、それぞれお皿やお箸やお醤油などを掻き集め「ピクニックになった」、と伯母は笑う。

ところで彼女はテニスが趣味で、若い頃



「田中薫カップ」(テニスで著名だった田中千代氏のご主人にちなむ優勝杯)を獲得した腕の持ち主で、何と今でも現役である。確か数年前に、「元気なおばあさん」とかいうテレビ番組で紹介されたこともあり、地元ではちょっとした有名人らしい。

結婚した孫もいるし、年齢的には確かに「おばあさん」世代だが、この呼び名はどうもこの人にはチグハグで実感がなく、と姪のひいき目からか、この私は思っている。

昨年帰国した際に立ち寄って、「何時迄も長生きしてね」と言ったら、「もうええわ」なんて例の調子だったが、その直後にあの震災。幸い京極病院はかすり傷で済んだが、途端に伯母の大活躍となったらしい。私と一緒にプールにペンキを塗った従兄弟のお嫁さんから「義母はそれは元気で毎日駆け回っていますからご安心」と連絡があった。

芦屋レディース・テニス・クラブの会長でもある伯母は、さぞかし頼もしい会長であるに違いない。

私が「元気な高齢者」のことを書くのは、私自身がその人達の生き方に励まされ、元気が湧いてくるからだ。これからの社会は、洋の東西を問わず、ストレスは増す一方となる。そして私達は、否応なしに年をとって行くのだ。そして高齢になると、身体のあちこちに故障が起り、生活も不自由となって行く。気持も

当然、沈んで暗くなりがちであろう。

しかしこれは、本人次第と言えるのではないだろうか。「克服」という言葉が心に浮かぶ。イブさんの様に、痛風で歩くのも億劫だった人が、それを克服して、若い人も顔負けするマラソン完走記録を築くことも可能なのだ。オリンピックや、各分野のスポーツで、チャンピオンとなった人達だって、そこ迄になるにはどれだけ多くのコトを人知れず克服せねばならなかったことだろう。

そういう意味では、ここに挙げた元気な高齢者3人や、先日99才で亡くなった宇野千代氏などは、カクシヤクたる人生のチャンピオンと言える人達だろう。

ところでこの記事の初めに挙げたアメリカ人の平均寿命74才だが、最新情報では既に76.3才と改新されている。この分では、日本は当然、アメリカでも、平均寿命百才となる日はそう遠いことではないだろう。

今や生命科学の焦点は、人間の遺伝子DNAと脳に向けられており、「人間」そのもの、つまり生命の神秘の謎の解明にとりかかっている。

次号では、アメリカ社会に於けるそういう話題にふれながら、カクシヤクたる人生を生きる人達の例を通して、効果的の老化防止、ひと言で言うと「元気に生きるには」について書いてみたい。

オサダの商品<お元気ですか>

宮崎歯科医院

広島県福山市春日町3-3-28

院長 宮崎吉右衛門
副院長 宮崎紘子
歯科医師 宮由紀子



福山駅より東に向かって、車でおよそ15分。県道より1本入った住商地。医院前面には川が流れ、周囲にはスーパーマーケットが立並び、隣は24時間営業のスーパーマーケット。

建物はT字形に建てられ、奥は医局と応接間、前は診療室となっている。前面アプローチは、中央の両側にレンガを積んだゆるやかな昇りの通路。左右が駐車場になっている。

待合室は窓に沿って座り心地の良さそうなグリーンのソファがL字形におかれ、その前面が受付。台前に立つと、仕切りの全くないオープンカウンターから診療室内部が一目で見渡せる、開放的で明るい印象の診療室作りである。

診療室入口の手前が院長専用の診療室。スマイリーGM1台と傍らには研究机。机上には文献や書物が積み重なって置かれている。透明ガラスを通して、診療室全体が見渡せる様に設計されている。窓に沿ってファインGM2台とスマイリーGM1台が設置されている。

院長は昭和12年日本歯科医専(現日本歯科大学)をご卒業。戦時下は満州方面に派遣されたものの、復員後は長崎医大薬理学教室で医学博士号を取得、さらに京大医学部外科学教室の研究員となり、その後は国立福山病院歯科医長、滋賀県長浜市立市民病院歯科部長を務められた研究・実力派。昭和37年、此処より数キロ離れた入船町にて

開業されたが、現在診療所はご子息(内科医)に譲られ、ご自身は副院長であるご息女・紘子先生と共に当院でゆったりと患者さんと歯科の相談・診療はむろんのこと、体験を通じた人生話しをしながら、今だ衰えぬ種々の研究、又原稿書きをされているご様子。現わした著書も歯科学書を初め、栄養学、生化学、更には「私のエチケット読本(近代文藝社刊)」など広範囲に及び、その博識ぶりには驚かされる。

「私は昔から経済的なことにはまるで関心がありませんでした(笑)。当院も娘が建て、運営しているんですが、ただ私の育った環境もそうでしたが、当家の方針は、学校を卒業



副院長：父も私も、
そして何より患者さんに心地良いユニット、
ということでオサダを使っております。

院長：私専用のユニットとして12~13年
使っていますが、故障も少なくアフターも良く。
良いユニットですね。

するまでは面倒を見るが、後は親を踏み台にして自らを伸ばし、自由に自分の人生を築きあげること。そこには当然、自由と表裏にある責任も総て自分で持つ、と言うことを養育の柱として来ました」。



現代の歯科医療について「決して昔だけが良いとは思いませんが、親から貰った大切な歯を簡単に削って、中の弱い部分に金属をかぶせる方法は疑問ですね。自然の歯

をいかに長く持たせ、使わせるか。これが何より大切と開業以来やって来ました」。「私は10分間の診療には10分説明。20分には20分を、患者さんと一体になり、栄養学も含めた健康づくりの話をしつつ、診療にあたって参りました」。今更、インフォームド・コンセントなど、というお顔。お金には全く関心が無い、といわれることにも合点がいく。「昔から勉強が忙しく、とにかく自分を少しでも前進させ、向上することのみを願って生きて来ましたので、家族はよくついて来たなー、でも自分では面白い人生だったなーと近頃思う時もありますよ」と笑われる。健康を保つ秘訣は「愚問ですよ。ただ前進、夢を追い続ける情熱、これあるのみ。病気をするヒマなんてありません」と一蹴された。趣味も日本舞踊、ヨット、旅行、魚釣、麻雀と多方面に亘る。これでは年をとっているヒマなど全くないであろう。——歯科医師となられた動機は「私は文科系に行きたかったんですが、歯で苦勞をしていた母から強く勧められ…。今では考えられないでしょうが、当時は親の命令は絶対だったんですよ。で、せめてこの封建的な雰囲気も抜けだせる、東京の大学で自由を満喫したいと(笑)」。さすがの院長も親の意見だけには逆らえなかったご様子である。その他、現代の教育、生態学の話など多方面に亘ってお話し下さったが、誌面の都合で…。

今年83才を迎え悠々とご自身の道を歩まれる院長に変わって、院内を取り仕切るのが、先述のご息女・絃子先生。ご自身のお話しによると「青学卒業後、花嫁修業(?)をしな



がら父の診療を手伝っているうち、いっそのこと歯科医になろうと父に相談したところ、「芸が身を助ける様では女は幸せとは思えないがなー?!」と一言。30才を目前にしての受験勉強は殊の外ハードで、今振り返ってみると勉強につぐ勉強をしたのは、あの時だけでは…。



30才になる年の春、歯科大学(日歯新潟歯学部卒)に入ることが出来ました」と言われるだけあって、院長に似たのであろう、努力家である。

「当院を開くにあたって、父からは金銭的な援助は受けませんでした。が、子供の頃から父の医療に対する姿勢を見て来たおかげで、借金の重みはありましたが、開業当初から何らとまどうことなく、患者さん達にも、従業員にも恵まれた好スタートを切ることが出来ました。それもこれも、父が与えてくれた無形の財産を沢山私が継承出来たことを感謝しております。患者さんも当院の方針を信頼され来院されてくれますので、そうした意味では2代目の良さに恵まれております」。イヤ、イヤ、お前の力がここまで当院を伸ばしたんだよ、と院長。暖かい親子の情が心に響く。

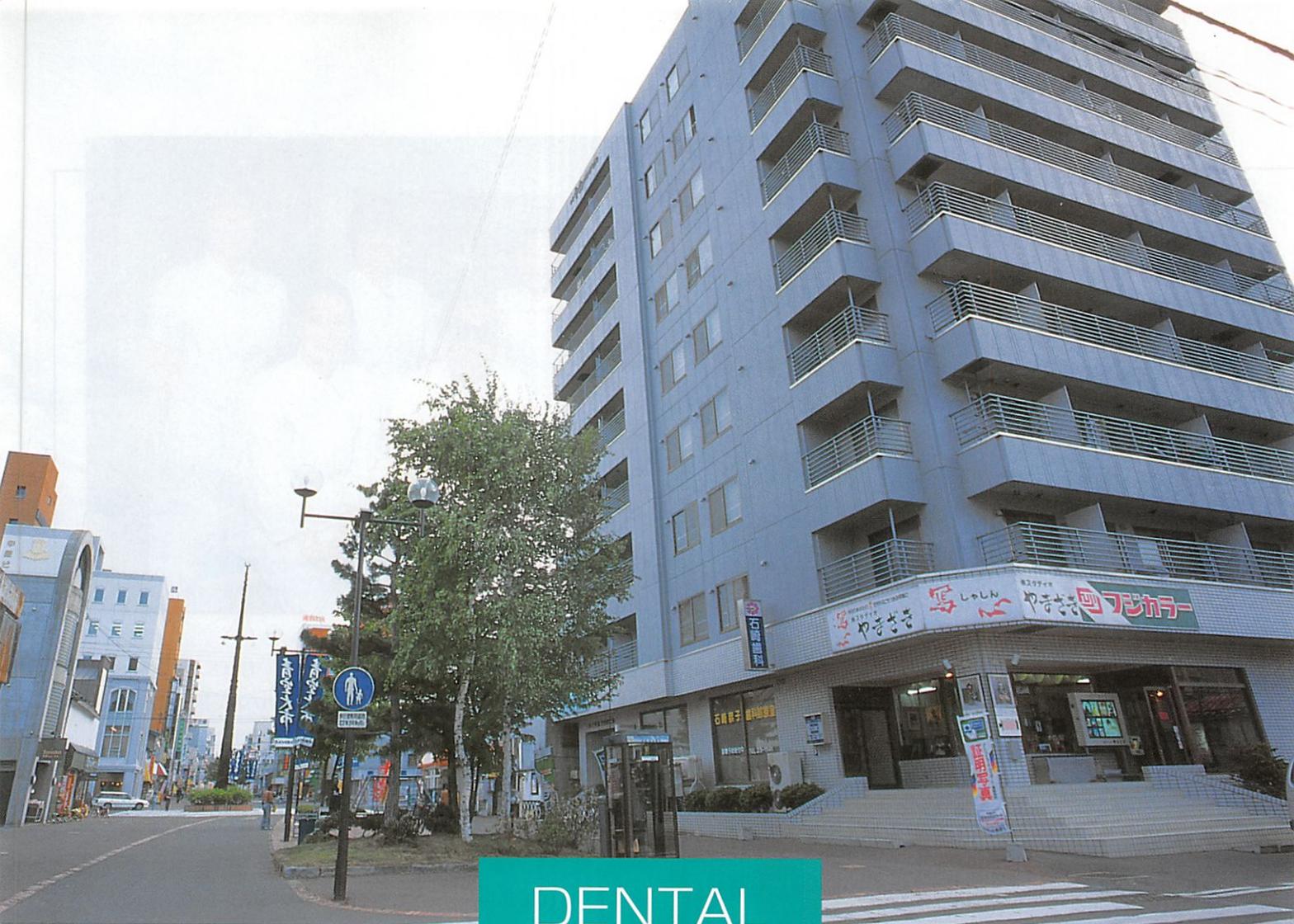
その絃子先生とコンビを組み、日々の診療・研究に励んでおられるのが、院長のお孫さんにあたられる由紀子先生(九州歯科大学卒)。卒後は、絃子先生と同じ横浜の鶴見歯科で1年間勤務をした後、当院に。——由紀

子先生から見たおじい様はどんな方?の質問に「小さい頃母に連れられて歯の治療に行ったんですが、とにかく怖かった。祖父が別に怒るわけではないんですが、治療中どんなに痛くても、決して涙を見せてはいけない、と母から毎回言われるんです。それがプレッシャーとなって、此処に来るのが嫌だった(笑)」と正直に。武士道精神・気骨を重んじる格式の家庭。宮崎家の家風を思わせる言葉だ。「周りに医師が多かったことから、何の疑いもなく、簡単になれるのかな、とこの道を選びましたが、受験勉強、国家試験よりも臨床ははるかにむずかしく、大変な職業を選んだものだ…(笑)。でもこれを伸ばすしかない、と



現在では思っております」と力強いご返事。院長、絃子先生と身近な大先輩に囲まれ、医師としての哲学、思想を受けついで素晴らしい女医として巣立つのも間近であろう。

オサダについては「大学、卒業後務めた横浜の鶴見歯科、そして此処と。ほとんどのメーカー、ユニットを使いましたが、父も私も使いやしく、そして何より患者さんが気持ち良く治療を受けられるユニットは、ということで選びました」と絃子先生。「ユニットも私専用として、スマイリーGMを残してくれています…。もう12~13年、故障も少なくアフターも良く。安心して使ってもらえます」と院長。うれしいお話しである。



**知り合いの家に来た様な、
くつろげる感じの
雰囲気を感じました。**

旭川空港から、冠雪の大雪・十勝連峰を背景に、初夏の爽やかな風に吹かれて忠別川を渡って市街へ。ご紹介の「石崎恭子歯科診療室」は、駅前を南北に貫く買い物公園と呼ばれる通りを徒歩でおよそ10分程度下った9階建の角地のビル1階にある。通りは呼称通り、中央にレンガが敷かれ、白樺や銀杏、ニレの木が植えられ、市民がゆったり買物に親しむ公園風に作られている。風といったのは、その公園にはラーメンや青空市場の旗が各所に立てられていて、どちらが目立つかわからない程だったからである。買物と公園。考えてみればよく付けられた通り名である。

DENTAL SPACE

石崎恭子 歯科診療室

旭川市7条7丁目
第6・7中島プラザビル1階

院長 石崎恭子

ちなみに旭川の街は駅を背にして、南北を「条」、東西を「丁目」と呼び、碁盤状に区切られ、初めての人でも住所を見ただけですぐわかるように造られている。

前置きが長くなったが、ビルを4~5段上った医院アプローチは、木目のドアに上部は曇りガラスを貼め込み、金色で「Dr.KYOKO ISHIZAKI'S DENTAL OFFICE」と書かれてあるだけで、どちらかと言えば地味な印象。

待合室も木目の床に、3人がやっと座れるソファ。両側には小さ目のスタンドが置かれている。アール状に作られた受付、その後ろ

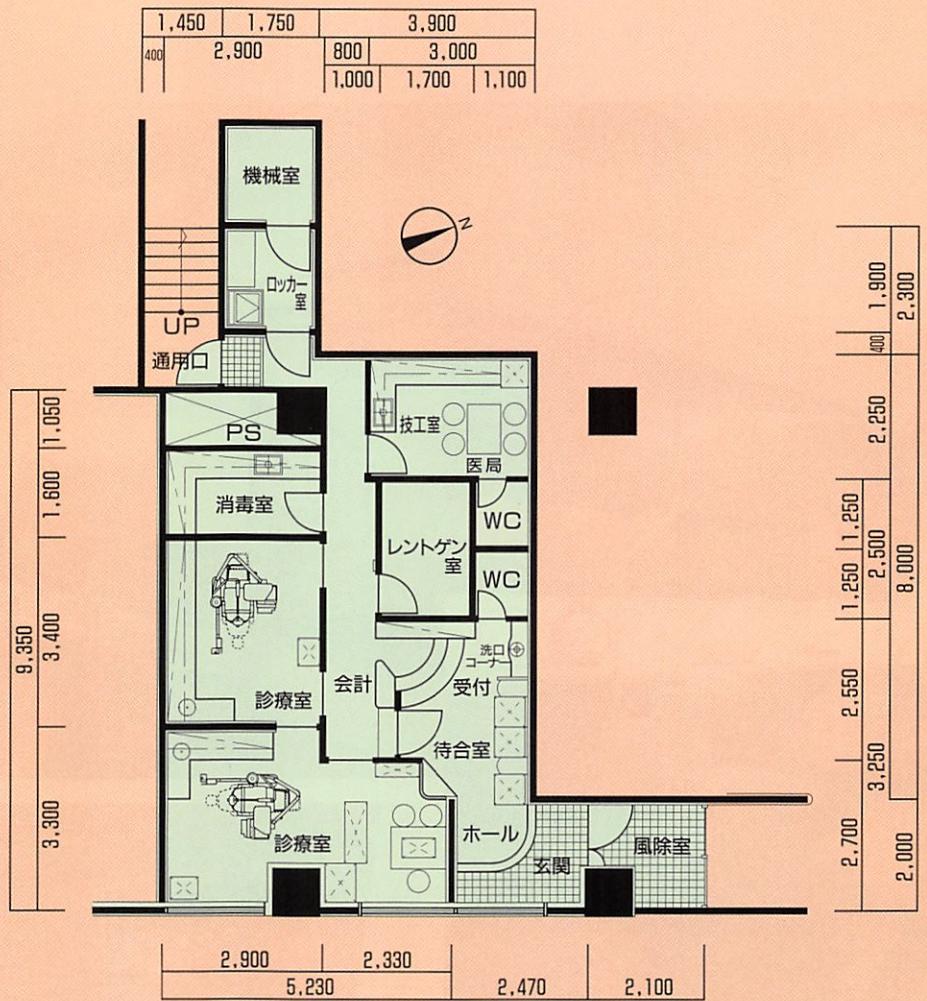
は濃茶のカルテ収納庫となっているらしいがすべて家具調。表面からは見えない。各所にさりげなくおかれた、品の良い置物や花、絵も小さめで、色調も穏やかにゆったりと安心してくつろげる欧風の家庭の応接間、といった感じに仕上げている。

診療室も内部に1箇所通路はあるものの、完全な個室作り。それぞれにメイプル材で作られた特注のキャビネットや器材収納庫が設置されている。2部屋に分けられた室中央には濃グレーと濃紫のファイン<GMD>L型が。これ又、欧米で時折見かける診療室といったイメージ。

余分なものは一切外部に出さず、シックでスッキリとした、日本ではめずらしい室内雰囲気である。

院長は昭和59年、神奈川歯科大学をご卒業。卒後は関東方面で勤務医を約3年。その後生まれ育った此処旭川市に戻り、入山歯科クリニックで8年間を過ごす。開業は昨年6月。

- 設計：(株)中原建築設計事務所
- 開業：平成7年6月
- スペース：77.24m²(約23.4坪)
- ユニット：ファイン<GMD>L型2台
- 診療時間：10:00～19:00
- 休日：日曜、祝祭日
- スタッフ構成：ドクター1人、衛生士1人、
技工士1人、受付1人
- 患者数：1日約15名



院長 石崎恭子先生

先述のように、ゆっくりくつろげる落ち着いた診療室にハキハキと気持ち良く応答されるスタッフ一同。恵まれ過ぎる程(?)恵まれたスタートである。

Q：歯科医師を志されたのは？

院長：父が設計((株)中原建築設計事務所・代表取締役社長)をやっておりますので、私も、と思っていたんですが、母から、これからは女性も手に職を、と言われ、試しに一枚だけ受けてみようかと…。大志があって入ったわけではないんですが、入学したらわりと性に合っていたんです(笑)。今は毎日がたのしく、人生最大の贈り物を貰った位だと思っています。

Q：で、こうしたインテリアもご自身で。

院長：ええ、父にアドバイスを受けながら、自分の考えている医院に仕上げました。少しでもアメリカの故Dr.L.D.PANKEYのパンキーフィロソフィーの実践の場になる

様にと。室内の雰囲気は、知り合いの家に来た様なくつろげる感じに。でも、動線や機能は無駄のないように。勤務医11年、その間の経験を活かしたつもりですが(笑)。

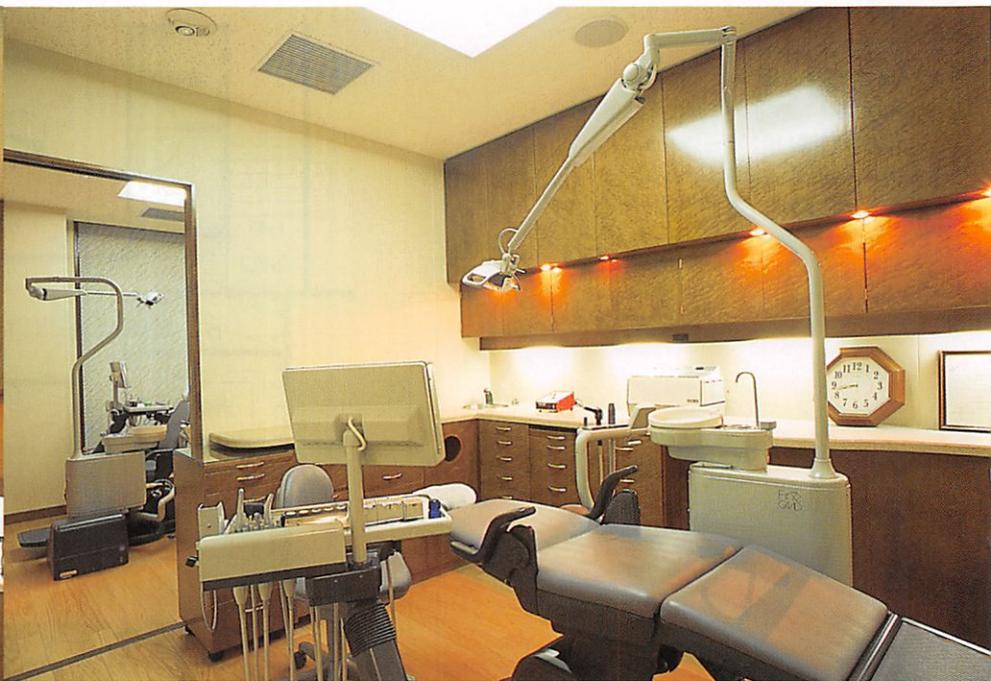
Q：完全個室。何故？

院長：寝かせられ口の中を人目にさらすことは、私達が思っている以上に、患者さんにとっては恥ずかしいことなんです。特に女性で歯を失った人などは、主人にも見せたくないと思っている人が多いのです。先日もスタッフが言っておりました。患者さんって、診療室に入るとあんなに「素(生地のまま)」に戻るのかしら、と。一見、歯とは関係のない話まで、ここに座ると自ら話すんです。そして次第に、若い時の自分の口元の感じや笑顔等、普段気になっていることを総て話し始めます。初診の患者さんは治療せず話しだけで終わることもあるんです(笑)。

Q：それまでの勉強。大変でしたよね。

院長：入山先生のところでスタディー・グループに入り、6年前からマイアミのL.D.パンキーインスティテュートでセミナーを受け始めました。朝から晩まで1週間ビッシリ講義。それを計3回、レベル4まで受講しました。機軸は“自分が求めている





ものを相手(患者)にしてあげなさい”ということです。患者さんの訴えている本当の心をまず知ること。これがわかれば、その後の診断・診療の方向が正確にわかり、ベストな治療が出来るということです。

Q：でも時間がかかり、今の保険の範囲では少々無理かと思いますが。

院長：ええ、正直経営は回っているだけです(笑)。でも、私の性格でなかなか対症療法だけでは満足出来ないんです(笑)。保険と一般、今は半々位ですが、選択肢さえ知らない患者さんに、今の自分の口腔状態を知らせてあげられれば良い。そう思ってしまうんです(笑)。

Q：理想と現実。先生は恵まれていますね。

院長：確かにそう思います。この医院を建てる時、父も言っていました。投資とは後々帰って来るものを言うんだと(笑)。つまり私のは投資にならないと言いたいのでしよう(笑)。時に私の心も揺らくこと

があるんですが、そんな時に父は言うてくれるんです。一度決めたことは最後までやり通しなさいと。給料を払えて、医院が回っていれば…。私は少々甘えているのかしらと少々反省する時もあるんですよ(笑)。恵まれていると思っております。

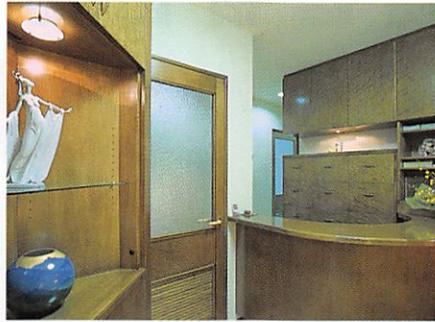
Q：室内で各所に工夫されたと思われるところがありますが、特に気に入られているところは？

院長：天井にリモコンで角度調整可能なライトを付けて、義歯調整等の場合にユニットの无影灯を動かさずに、キャビネット内にとり付けたバキュームで吸わせなが

ら調整が出来ること。各室内に受付と直結した色ランプを取り付け、その番号の点灯によって、患者さんはもちろんですが、スタッフの状態も知ることが出来ます。弟が電気設備の会社をしておりますので力になってくれましたが便利です。

Q：オサダのファイン<GMD>。選んで頂けましたのは？

院長：学生時代にお世話になっていた川崎の先生が、自分でやるならオサダがいいよ、といつも言っていましたし、私もユニットの専門メーカーですから故障が少なく、信頼していましたから。でも正直いつ



て、私はもともとデザインに興味がある方ですから、昔は少々オサダは無骨だと思っていました。でも最近はスマートになり…。GMDは、やはり質の高いもの、患者さんが寝ても座っても心地よいもの、という双方の条件を満たしていることから選びました。患者さんにも評判が良いですよ。

Q：最後に、後に続く女医さんに一言。

院長：女性に限りませんが、正確な診査診断にもとづいて患者さんの治療のゴールのイメージをもって治療計画をたてる様に。歯科医師としての自分のゴール、どんな歯科医師を目指すのか。しっかり方向を見定めることが大切だと思います。もし私が卒後間近で開業していたら、この選択肢さえ知らなかったと思います。私もまだまだその途中の人間ですが…。ちょっと生意気なことを言ってゴメンナサイね(笑)。

<設計・施工の立場から>

設計にあたって、娘と長い間議論しました。それは私は設計のプロではありませんが、同時に親(スポンサー?)として経営が順調に伸びて行く事がまず大切と考えますから、正直、毎日衝突の連続でしたね(笑)。そんな訳で娘の歯科医師としての理想・専門家としての意見を考慮しつつ、患者さんの立場に立った診療室を作り上げて見ました。

開業以来やっと一年。どうやら軌道には乗って来たようですが、大都会とは違い、今後も経営の面での苦労は強いられることでしょう。ただ私は、人間誰でもそうなのですが、自身の信じる、一度決めた道は、後々悔いのない様に歩んで貰いたいと思っています。照明、ソファ、収納家具一つに至るまで神経を使った院内雰囲気、患者さんが好み、石崎歯科に行けば苦痛が和らぐ、と言って下されば、医療の目的の一つは達せられるのではないかと今は考えています。無事無難を願う親の立場、経営者としての厳しい目。やっと開放されて…、今は少々ホッとしております(笑)。
(株)中原建築設計事務所・代表取締役社長
石崎 義敏



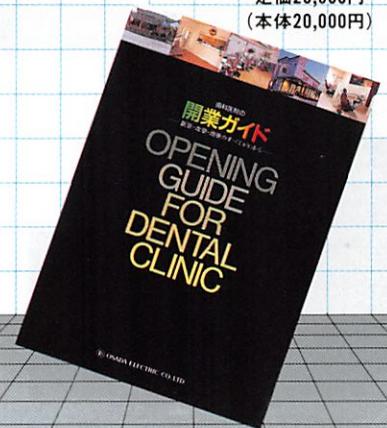
改訂版 開業ガイド

歯科医院の新築・増改築などに
豊富なカラー-photoを
多数掲載!!

<主な項目>

- 歯科医院のセクション別実例
(カラー-photo118点掲載)
- 歯科医院のレイアウトチェック
リストと基本事項
- これから開業される先生方へ
——オサダからのアドバイス
- 開業と税金の知識 他

定価20,600円
(本体20,000円)



※御希望の方は下記迄、御連絡下さい。
長田電機工業(株)／お客様センター
〒141 東京都品川区西五反田5-17-5
TEL 03(3492)7651(代)

中野区歯科医師会 スマイル歯科診療所

東京都中野区中野5-68-7 中野区社会福祉会館7階
(会長・管理 近藤安司)



計4台が移動自由なモービルタイプで、簡易セパレーションの中に設置されている。

こうした施設はどの市町村でもそうであるが、行政側との接渉も多く一朝一夕では実現しない。中野区の場合もその例に漏れなかったご様子。そのご苦心談を、設立までの長い年月取り組まれた担当理事の谷光明先生にお聞きした。



「最初に障害者団体から区の行政に要望がありましたのが昭和52年。翌年に区歯科医師会へ打診ありましたが、その時点では即実行は無理で、

正式に委員会を作り同時に勉強会を発足させましたのが昭和55年でした。その後、協力医の研修や勉強の基礎も固まり、昭和58年、他の場所で実行に移す段階となりましたが、近隣の反対に合ってやむなく中止となりました。スタートは早かったのですが、その様なわけで、開設は昨年4月、都内23区では遅い方になってしまいました」と苦笑される。一朝一夕どころか、10年ひと昔であるが、それだけに施設の内容も充分研究されると共に、スタッフ陣も素晴らしい。「ええ、その点は恵まれてね。指導医として神奈川県立こども医療センター歯科の池田正一先生、昭和大学歯学部に向井美恵先生など、日本でも一流と言われる先生方が土曜日や日曜日に来ていただき、協力医に直接指導下さいます。我々は書物だけでは得られない細部の診療・方法を学ぶことが出来、特に若い先生方には良い研修の場となっております」。おそらくこうした経験は自院の診療——障害児だけではなく、高齢化社会を迎えた現在、大きく役立つことであろう。「現在は18才未満の障害児のみ診療しておりますが、今後は寝たきり老人を対象に診療する他のチームと連携し



JR・中野駅北口から、左手に中野サンパラザを見て、通りを3~4分。一昨年12月竣工成った中野区社会福祉会館は文字通り障害を持つ方々をサポートする総合福祉センターである。内部をザッとご紹介すると、福祉機器展示・相談センター(3階)、福祉協議会(4階)、障害者社会活動センター(5階)、スマイル社会復帰センター(6階)等々と名づけられ、各階には社会復帰のための手助け・支援の専門員が活動されているようだ。



ご紹介の歯科診療所はその最上階、7階にある。車椅子が楽に往来出来る広い通路。当然のことだが、細部に亘って木目の手すり。通路右手に待合室とじゅうたんを敷いたプレイコーナー。左手が受付、その向かい側は刷掃指導室——清潔な室内には幼児用の特殊チェアや各種歯ブラシが洗口台脇に並べられている。およそ10間×4間はあるかと思われる広々とした診療室内。窓に沿って特殊診療用ユニット<オサダSTシステム>が2台、更にファイン<GM>が2台。



たり、要望にそって年齢層の引き上げなど、色々と改革されていくことと思いますが、未だやっと1年過ぎたばかりで…。まず基盤をキチンとしてからと考えております」。

—スタッフと診療日は？「10人の専任医局員と96名の協力医。それと先程の指導医の先生方に、時に医局員共々来ていただいております。診療は主に木曜と土・日です。木曜日は比較的休診される先生方が多いことから。土・日曜日は患者さんの保護者の都合の良い日ということで、そうになりました」。

—来院者数と来院動機は？「昨年は初年度ということもありまして39名でした。ただ障害者ですので天候などにも左右されてバラツキが大きく、今日の日曜日は10名の予約が入り、その対応をどのようにしようかと、今から考えております(笑)。来院者は区内に在ります障害者の2つの通所施設からの紹介とそうしたグループ内での口コミで知り来院されるケースが多いですね。」「診療内容も健常者と同レベル、高次元の治療を提供することを方針にしておりますから、患者さんはもちろん我々歯科医にとっても良い勉強になります」。医師は当然のことですが、弱い立場の人達を労る気持を常に持ち続けることが大切です。接しておりますと、逆に障害者の方々から教わる部分が多いですよ、と言われる。以前先述の池田先生にご登場頂いたときの言葉“障害があっても、一生懸命生きている姿を見ると、人間の生きる目的、生きるとは何か、を必ず感じます。もし、それを感じない人がいたならば、その人は医療に携わる資質がない人だと思えます”というお話が心をよぎる。

—今後こうした施設を作られる場合の何か参考になるお話がございましたら…。「そうですね。まず、当たり前ですが地域行政は地域の住民が平等に幸せで安心して生活出来る環境を提供することが第一の目的で



から、障害者グループからの要望を行政側に強くアピールすること。次に決定した場合、会は診療を受けられる方々との連携をしっかり保つこと。中野にはそうした団体が10以上ありますが、歯科医師会と毎年1回懇談会を持ち、お互いの意見を交換し合っております。日々の診療にはスタッフの充実が上げられます。体験豊富なドクターはもとより、歯科衛生士や看護婦、出来たら保健婦さんなどを加えますと、我々ではちょっと、と思うことでも保護者の方々から聞き出し、診療に役立てますから、充実度は増しますね」。

帰りには皆さん揃って“ご苦勞様でした”の明るい言葉と笑顔。診療所名通り、暖かいスマイルが印象に残った。





中
國
武
藝

中国武藝(格闘技)、
元世界チャンピオンに輝く
岡部先生の道場を訪ねて。

おかべ歯科医院

福岡市早良区有田1-28-1

院長 岡部知剛



「中国武藝精進會」。日本ではまだあまり聞きなれない武道名であるが、かつて日本中を沸かせた香港映画のスター、ブルース・リーが画面で悪人を次々と薙ぎ倒した格闘技と言えば誰でもおわかりであろう。

その元世界チャンピオンが日本、しかも歯科医師と聞いて早速お訪ねした。

場所は、博多駅から車でおよそ30分の市郊外の住宅街の一角。

診療所に続く裏面の道場。入口には中国武藝精進會・日本國分會、綜合武道場・知

剛塾(ちごうじゅく)とあり、その横には3才から100才まで歓迎とある。指導技がカンフー、カラテ、キックボクシング等であるから、まさか女性や幼児はいないだろうと思いつつ道場に入ると、屈強な男性陣に交じって、3~4人の女性、小さな子供もアスレチックに励んでいる。

お会いした岡部先生も、さすがに無駄な筋肉は一切殺げ落ちていた感じはするものの、どちらかと言えば小柄でやさしい面立ち。背広を着たら格闘技の世界チャンピオンとはとても思えない印象。が、中央マットレス上で、スパーリングが始まると、その印象は一転。たとえ1秒の間でも逃さないぞ、という鋭い目と体に早変わりする。

指導の合間をぬって、先生にこの道に入られた動機、当道場の成り立ちや方針等々をお聞きする。

「私がこの格闘技を知ったのは25年位前になります。それまで日本で“空手”を練習していましたが、父の親友が台湾人で、その方々から話を聞いたり、試合風景を見せて

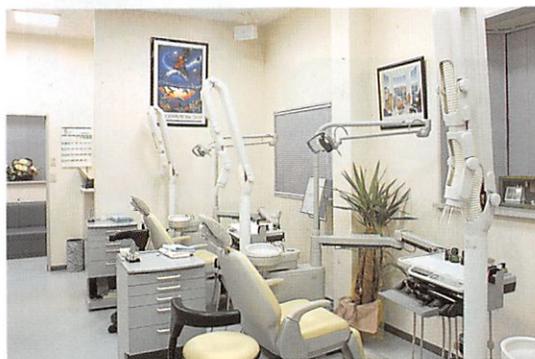




貰っている内に自分もやってみようかと…。当時ブルース・リーが全盛で、強くて格好よく…。憧れもだいぶ入っていたかも知れませんね(笑)。当道場には現在100人ほどの塾生がおりますが、その半分位は歯科関係。ドクター、歯科大生、技工士、衛生士の方々です。お話中にもぞくぞく生徒が道場に入って来る。入ると必ずマット上に正座し「オッス、お願いします」と拳を固め挨拶。その度に先生も「オッス」と同じく拳を固め返事を返す。取材中は声も小さく、少々テレ気味であるが、挨拶の返事はこちらがドキッとするような腹の底から野太い声。

—世界チャンピオンになられたのは? 「最初に優勝したのは約15年余り前で、その後1991年までに計4回チャンピオンとなりました。この格闘技にも各流派があり、その人達が一同に会して競うのですが、中国で始まったこの武道は、今では世界中に広まり、当道場(本会)の支部もヨーロッパに6ヶ所持って活躍しております。日本人としては初めてのチャンピオンでした。道場内は3方に大きな鏡、各種のトレーニング機器、サンドバック等々。壁には何10個のトロフィーやメダル、賞状が並び、当道場の戦歴の優秀さを物語って

いる。試合規則は拳、足、膝、手腕、ヒジ、頭、投技、絞め、関節技を使用して相手を攻撃してよい、とあるから、日本で知られる柔道、空手、ボクシング等総てミックスされた武道であるようだ。「ええ、私も福岡帝拳ジムの指導員をやっておりますし、当道場の各指導員も九州では名の知れた人達ばかり。全国大会で優勝した選手も多いですよ」と言われる。今年4月アクロス福岡イベントホールで開催された第2回格闘技カーニバルには大会委員長を務め、知剛塾からの歯科関係者も今村宏先生(福岡歯科大卒)、佐々木啓介氏(歯科技工士)、古賀武氏、小嶺雄氏(共に福岡歯科大5年)が出場されている。過去の戦歴も優勝を含め毎回上位の成績を残されているようだ。勉強一筋も良いが、合間をぬって



一般人と交じり、スポーツに励み、しかも名を成して行くことは並大抵のことではない。

—ところで先生、歯科の方は? 「正直なところ、此処は今村先生や代診の先生にほとんどまかせきりですね。わたしは実家が病院をやっておりますので、治療はその寝たきりの入院患者がほとんどでして…。大会・試合が近づくと、毎夜11時~12時頃まで打合せや指導に追われ…。今はどちらが本業か、自分でもわからないんですよ(笑)」。

—方針は? 「日々の鍛練により、心身共に自己を高め、家庭や仕事にも貢献出来る人間づくり。ただ、強いだけでは意味がありません」とキッパリ。清々しいご返答である。丁度いらした奥様に…。家庭でのご主人は? 「子供の躾けは厳しい方ではないでしょうか。でもやさしい人ですから、なつきますね。私もこの雰囲気が好きで、応援に行ったり細かい雑用は手伝っておりますが、今は子供に手がかり…。もっと色々主人のお手伝いが出来ればいいんですが…。夫唱婦隨。素晴らしい言葉である。帰り際、ご夫妻と共に今村、古賀両先生が揃って“ご苦勞様でした”の見送り。背筋を伸ばした礼儀正しい挨拶に知剛塾の武道の真髄を見た思いがした。

ス タ ッ フ 紹 介

辻 歯科医院

三重県四日市市川島町6000-144

院長 辻 孝

近鉄・四日市駅から西に向かって車でおよそ7~8分。ご紹介の「辻歯科医院」は近くに東名阪高速道が走る、丘陵地が雑たん型に整地された新しい郊外住宅地の一角に建っている。

建物の両側は15台以上は可能と思われる駐車場を設けていることから、一見してかなり患者数の多い医院だな、とわかる。

待合室は通常の椅子の外に、窓に沿って椅子と同じ高さで横長に畳が敷かれてある。おそらく身体が弱い患者さんがチョッと横になりたい時、寝てしまった幼児をベッド代わりに、又椅子が満杯だから、と多目的に使用出来ることから設けたスペースであろうが、良いアイデアである。

院長は東京歯科大学を卒業後、補綴学教室の溝上隆男教授のもとで10年、地元四日市市で勤務医を1年経験された後独立。今年40才になります、と言われるが、明るく爽やかな印象は未だ青年医師を思わせる。

受付を手伝ったり、経理その他雑務担当の奥様を含めた昼休み時も、皆さんでたのしそうな会話がとび交っている。

医院全体が居心地の良い家庭、といった雰囲気である。

最初にご紹介するのは四日市歯科衛生士専門学校を卒業された野崎さん。卒後他の歯科医院に勤めたが、家の事情で退職。半年のブランクの後当院へ。「この医院が開業した時から勤めておりますから、もう丸4年になります。この医院の魅力は、患者さんとの関係を含めた環境と共に院内では何でも言える雰囲気があることかしら。入った時から、ずっとオツボネさんで通しております(笑)。普通は若い子の方が賑やかですが、当院は逆。齢

を経た人の方がベチャベチャうるさいですよ。私とその一番先輩」と明るく笑う。「小さな時歯の治療に通っていたことから学校に入ったんですが、衛生士という独立した資格があることは知らなかったんです。人と接することは好きだし、イヤなことはどんな職業でもありますから、余りにしません。イヤなことはイヤ、と言える雰囲気。やっぱり院長の人柄が私に向いているのが長く勤められた原因ですね」。

山崎さんも野崎さんと同じ学校卒の一年後輩にあたる同窓生。新婚ホヤホヤとお聞きする。「遅番の時は夜8時まで勤めておりますが、その時は義母が主人の食事等を作ってくれますから、全く文句は言いません(笑)」。「この職業は叔母が衛生士をしていることから知り、入りましたが、やりがいのある職業だな、と感じています。仕事上気をつけていることは、2人のドクターの微妙な治療法の違いを読み、器材等の準備をキチットすることですね。ブラッシングやスケーリング等もやっておりますが、2交替制ですので、なかなか同じ患者さんをずっと見ることが出来ず…。それが出来るようになれば経過や指導も、もっと深く知ることが出来、やりがいも今以上になるでしょうね」。

「開業以来通われている子供さんが、年々成長していく姿を見ているとどののしみも倍加する。やさしいご性格のようである。

小川さんは三重県立公衆衛生学院を今年3月卒業されたばかりのフレッシュ・ハイジニスト。「入ったばかりで今は色々覚えることばかり、毎日が夢中です。でも患者さんから見れば皆同じですから、何か間違ったことを言ってしまうは大変と、その辺が不安ですね。先輩から教えて貰い一日も早く、と思っています」。「小学校時代、矯正





に通っていてこの仕事を知ったんですが、就いてみての感想は…。うーん、まだ何んだかよくわかりません」と正直であるが、先の話でもおわかりのように、2~3年後には素晴らしい衛生士に育っているだろうと思わせる、しっかりとした印象である。

藤田さんも四日市歯科衛生士専門学校卒の衛生士さん。衛生士不足を嘆く歯科医院が多い中であって、少々贅沢(?)な陣容。よほど居心地の良い医院なのだろう。その魅力は?「やはりスタッフ全員が仲が良いこと。それと院長が尊敬出来る人、ということですね。アルバイトに来た時から感じていたんですが、治療も上手ですし、患者さんからもち

ごく親われているんです」と当院の魅力を。気を使っていることは?「私の一言がこの医院の信用につながりますから、患者さんとの会話ですね。神経を使います。それがうまく伝わってないと感じた時は、後々まで気になって…」プロとはかくあるべし、のご返答である。

伊藤さんは今年5年目を迎えた受付兼アシスタントさん。「2人で交替しながら、受付、予約、カルテの整理などやっていますが、患者数も多いので細かい神経は使いますね。でも帰り際、治療の終わった患者さんが、うれしそうに笑顔で挨拶されると、この職業、この医院に入って良かったな、と思います。イヤな時?うーん。あまり患者さんが多いと疲れて…。

でも皆さん明るいし、たのしい職場で…。イヤだと感じる時はあまりないんです。本当ですよ(笑)。

松岡さんも伊藤さんと同じく受付兼アシスタントさんで、当院に入って5年目を迎えている。「商業学校でしたから、普通の事務の仕事は一応知っていましたが、医療事務はちょっと特殊ですから、最初は専門用語を覚えるだけでも大変でしたが、やっと最近慣れて来ました。「この職業に就いて良かったな、と思う時は、患者さんから、長い間ありがとうね、と言われた時ですね。困る時は、患者さんが時間通りに来てくれない時。次の患者さんと時間の調整が出来ず、少しイライラします」。素直で明るい印象だが、受付の割りには、無口(?)である。

森川さんは当院を陰で支える技工士さん。動機は?「初めは衛生士になろうと思っていたんですが、入学にあたって色々調べている中に、美術や手先を使うことが好きなことから方向転換。技工士の道を選びました」。で今は?「1人ですので、わからないことばかり。外注先の技工士さんや材料屋さんに教えて貰ったりしておりますが、思っていたより大変。理想と現実が違うな」といっています」と正直に心の中を。先号の男性技工士さんも、初めは嫌で嫌で…。8年目でやっと近頃面白くなって来ましたと語っているから、女性で5年目では、無理のないご返事、と思われる。ボーイフレンドは何人?の質問に「1人です」と初めてニコリ笑われた。



〈院長から一言〉

今の歯科医院は我々ドクターだけでは決して成り立ちません。特に子供やお年寄りの方など、治療以外の手助け、介補

が必要ですし、終わった後のメンテナンスの指導など、女性スタッフの活躍如何にかかっていると言っても過言ではありません。そうした意味では我々以上にスペシャリストで、その信用が安心となり、来院につながるのではないのでしょうか。当院も初めは衛生士は2人でしたが、3人になればもっと行き届き、4人になれば更に、と増やしましたが、確かに我々の仕事もずいぶん分しやすくなりました。少しでも働きやすい環境づくりを、と心掛けていますが、お陰様で皆さん一生懸命働いてくれますし、患者さんの評判も良いようで、有り難く思っております。



診療室訪問シリーズ

紺歯科医院

東京都江東区新大橋2-6-3

院長 紺 治夫
(日本大学歯学部卒・67才)



副院長 紺 健一
(日本大学歯学部卒・33才)

歯科医師 紺 安佐子
(旧姓・矢田、日本大学歯学部卒)



これからの診療には絶対必要なくフレクシー クリーンエア システム。

オサダはユニットに組み込まれておりますから、使い勝手も良く助かりますね。

隅 田川にかかる新大橋を渡って40〜50m。浮いた浮いたとと明治一代女で唄われた浜町は川を挟んで対岸。ご開業の頃は粹筋の患者さんも多かったことであろう。

院長は昭和24年にご卒業後、4〜5年勤務医され当地に開業。以来40年余り、日本歯科医師会や都歯科医師会の役職を歴任されたベテラン実力派。今後医院の柱となるご子息に願うことは「私達の時代とは違い、ハミガキの仕方から診療内容や予後のケアまで20〜30分かけて丁寧の説明。時にイライラしますが(笑)、それが信頼となって伝わっているようで…。この辺は下町で患者さんとは長く深くつき合う土地柄ですので、後で気まずい思いをするような診療だけは絶対にしないでほしいと願っています」。病後の院長に変わって共に活躍される副院長。保存科(認定医)で長く勉強されただけあって、院長のおっしゃる丁寧な診療方針を地で行っているご様子。「父を信用して来院される年配の患者さんは院長に。私は新しい患者さんや体力を要する治療を受け持ち診療しております。今後は父の築いた信頼関係に時代に沿った診療法を取り入れ、更に大きく積み上げて行けたらと思っております」。お2人の間に立ってクッション役を果たされるのが今年ご結婚されたばかりの安佐子先生。医局で3年、主にクラウンブリッジを研修されたと言われるから、3者3様得意な分野で…。患者さんにとっても有り難いことであろう。「診療は大好きですから、今後出産・子育てなどがあります。が、ずっと続けて行きたいですね」。

◇ これからの診療室には患者さんのもとよりスタッフにとっても絶対必要と思いつフレクシークリーンエア システムVを導入しました。特にオサダはユニットに組み込まれておりますから、使い勝手も良く助かります」と副院長。「私は補綴が主ですから、これは役立ちますね。友人たちから楽で清潔、良いなー、と言われますよ」と院長のご感想である。



F.C.A.S.

内蔵式口腔外バキューム

オサダ フレクシー クリーンエア システム

¥386,000(工場オプション)※消費税別途
※ブLOWER、エアシャッターは別途

※資料ご希望の方は、商品名、掲載誌名を明記の上、本社お客様センター係宛にハガキでご請求下さい。



診療室訪問シリーズ

せき歯科医院

福岡県筑紫郡那珂川町大字仲320-19

院長 関 暁彦

(東京歯科大学卒・33才)



最先端の機能を装備していること。

オサダの誠実な企業姿勢。

この2点からアフラインGMDV
を選びました。

福岡市街より車でおよそ20分。付近は市
新興住宅地。その角地に今年4月開業された「せき
歯科医院」。一般歯科と共に小児、矯正も標榜されているだけあ
つて、待合室もサーモンピンクの椅子にエンジ色の受付と、たのしい
色使いをされている。

院長は東京歯科大学を卒業後、医局で1年、更に佐賀医科大
学口腔外科学教室で学ばれた、爽やかでやさしい印象を与える青
年医師。又、此処から車で約10分のご実家も長年地域住民に貢献
された歯科医院で、現在はお母様とお兄様が、先年亡くなられた
お父様の後を継がれ活躍の様子である。

「素晴らしい恩師、先輩に恵まれ無事開業することが出来まし
た。今後は教えられたこと——最初に口腔内の診断をキチッとや
り、顎機能を正常に戻すことを主体に診療をする。これを方針に、
地域住民に根づいた歯科医院に行きたいと思っております。ま
だ開業したばかりで毎日が夢中ですが、僕は手が遅いのでその辺
が悩みです(笑)」。患者さんの立場に立つ
て丁寧な診療をすることの証でもあるう。

◇ 明るい窓に沿ってアフラインGMDVが2
台、アフラインGMV1台がそれぞれアフレ
クシークリーンエアーステムV付で並んで
いる。「実家もオサダのユニットを使用してい
ますから、故障が少なく、メンテナンスも
良いことは知っていました。GMDを選んだ
のは、最新の機能を装備していること、誠
実な企業姿勢、この2点からです(笑)」
◇ とうれしのお話である。

OSADA
Fine GMD
L233LL

製造承認番号03B第0326号

